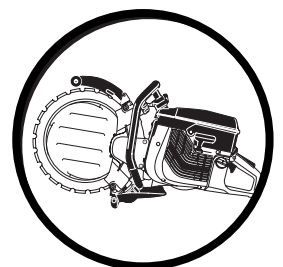


# パワーカッター取扱説明書

## **K950 Ring**

パワーカッターをご使用になる前にこの  
取扱説明書を注意深くお読みいただき、  
内容を必ずご確認ください。



**Japanese**

## シンボルマークの意味

### シンボルマークの意味

警告!本機は正しく慎重に扱わない場合危険な道具となり、使用者やその他の人が重傷または致命傷を負う原因となることがあります。



本機をご使用になる前にこの取扱明書を注意深くお読みいただき、内容を必ずご確認ください。



常に以下のものを着用してください。

- 保護ヘルメット
- イヤマフ
- 保護メガネまたはバイザー



この製品は EC 指令に準拠しています。



警告!切削によって発生する粉塵は、吸入すると健康障害の原因となることがあります。承認された防塵マスクを使用してください。ガソリンの排煙や排気ガスを吸入しないよう、ご注意ください。換気を十分に行ってください。



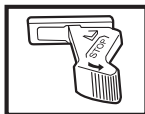
警告!カuttingブレードから発生する火花によって、ガソリン(気体)、木材、乾燥した草などの可燃物が火災発生の原因となることがあります。



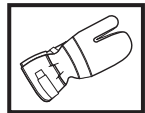
環境に対する騒音放射レベルは EC 指令に準拠。本機の騒音レベルは、主要諸元の章とステッカーに記載されています。



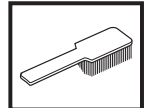
点検やメンテナンスを行うときは、まずストップスイッチを **STOP** の位置にして、エンジンを切ってください。



常に保護手袋を着用してください。



定期的な清掃が必要です。



目視点検。



保護メガネまたはバイザーを必ず着用してください。



運転位置。



リターンズプリングが運転位置に戻っている状態での停止。



固定された状態での停止。



その他のシンボルやステッカーなどは、地域固有の各種基準に対応したものです。

# 目次

## 目次

### シンボルマークの意味

|                  |   |
|------------------|---|
| シンボルマークの意味 ..... | 2 |
|------------------|---|

### 目次

|          |   |
|----------|---|
| 目次 ..... | 3 |
|----------|---|

### 各部名称

|                    |   |
|--------------------|---|
| パワーカッターの各部名称 ..... | 4 |
|--------------------|---|

### 安全注意事項

|                           |   |
|---------------------------|---|
| パワーカッターを初めてお使いになる前に ..... | 5 |
|---------------------------|---|

|             |   |
|-------------|---|
| 身体保護具 ..... | 5 |
|-------------|---|

|                    |   |
|--------------------|---|
| パワーカッターの安全装置 ..... | 5 |
|--------------------|---|

|                                      |   |
|--------------------------------------|---|
| パワーカッター安全装置の点検・メンテナンス・<br>サービス ..... | 6 |
|--------------------------------------|---|

|                  |   |
|------------------|---|
| 安全に関する予備知識 ..... | 8 |
|------------------|---|

|                |   |
|----------------|---|
| 一般的な作業方法 ..... | 9 |
|----------------|---|

### 設定と調節

|            |    |
|------------|----|
| 駆動原理 ..... | 12 |
|------------|----|

|               |    |
|---------------|----|
| ブレードの取付 ..... | 12 |
|---------------|----|

|                    |    |
|--------------------|----|
| ガイドローラー全体の取外 ..... | 14 |
|--------------------|----|

|                    |    |
|--------------------|----|
| ガイドローラー全体の取付 ..... | 14 |
|--------------------|----|

|             |    |
|-------------|----|
| 重要事項： ..... | 14 |
|-------------|----|

|                 |    |
|-----------------|----|
| 駆動ホイールの交換 ..... | 15 |
|-----------------|----|

|                           |    |
|---------------------------|----|
| サポートローラー/ガイドローラーの交換 ..... | 15 |
|---------------------------|----|

|             |    |
|-------------|----|
| 水道ホース ..... | 15 |
|-------------|----|

### 燃料の取扱

|          |    |
|----------|----|
| 燃料 ..... | 16 |
|----------|----|

|          |    |
|----------|----|
| 給油 ..... | 16 |
|----------|----|

### 始動と停止

|             |    |
|-------------|----|
| 始動と停止 ..... | 17 |
|-------------|----|

### メンテナンス

|                  |    |
|------------------|----|
| ガイドローラーの注油 ..... | 18 |
|------------------|----|

|                |    |
|----------------|----|
| 駆動ベルトの調節 ..... | 18 |
|----------------|----|

|                        |    |
|------------------------|----|
| ベルト張力調整/駆動ベルトの交換 ..... | 18 |
|------------------------|----|

|                   |    |
|-------------------|----|
| ベルトプーリとクラッチ ..... | 18 |
|-------------------|----|

|              |    |
|--------------|----|
| キャブレター ..... | 18 |
|--------------|----|

|               |    |
|---------------|----|
| 燃料フィルター ..... | 19 |
|---------------|----|

|               |    |
|---------------|----|
| エアフィルター ..... | 19 |
|---------------|----|

|               |    |
|---------------|----|
| スターター装置 ..... | 20 |
|---------------|----|

|               |    |
|---------------|----|
| スパークプラグ ..... | 21 |
|---------------|----|

|              |    |
|--------------|----|
| 冷却システム ..... | 21 |
|--------------|----|

|            |    |
|------------|----|
| マフラー ..... | 22 |
|------------|----|

|               |    |
|---------------|----|
| ブレードの修復 ..... | 22 |
|---------------|----|

|                  |    |
|------------------|----|
| 一般的なメンテナンス ..... | 23 |
|------------------|----|

### 主要諸元

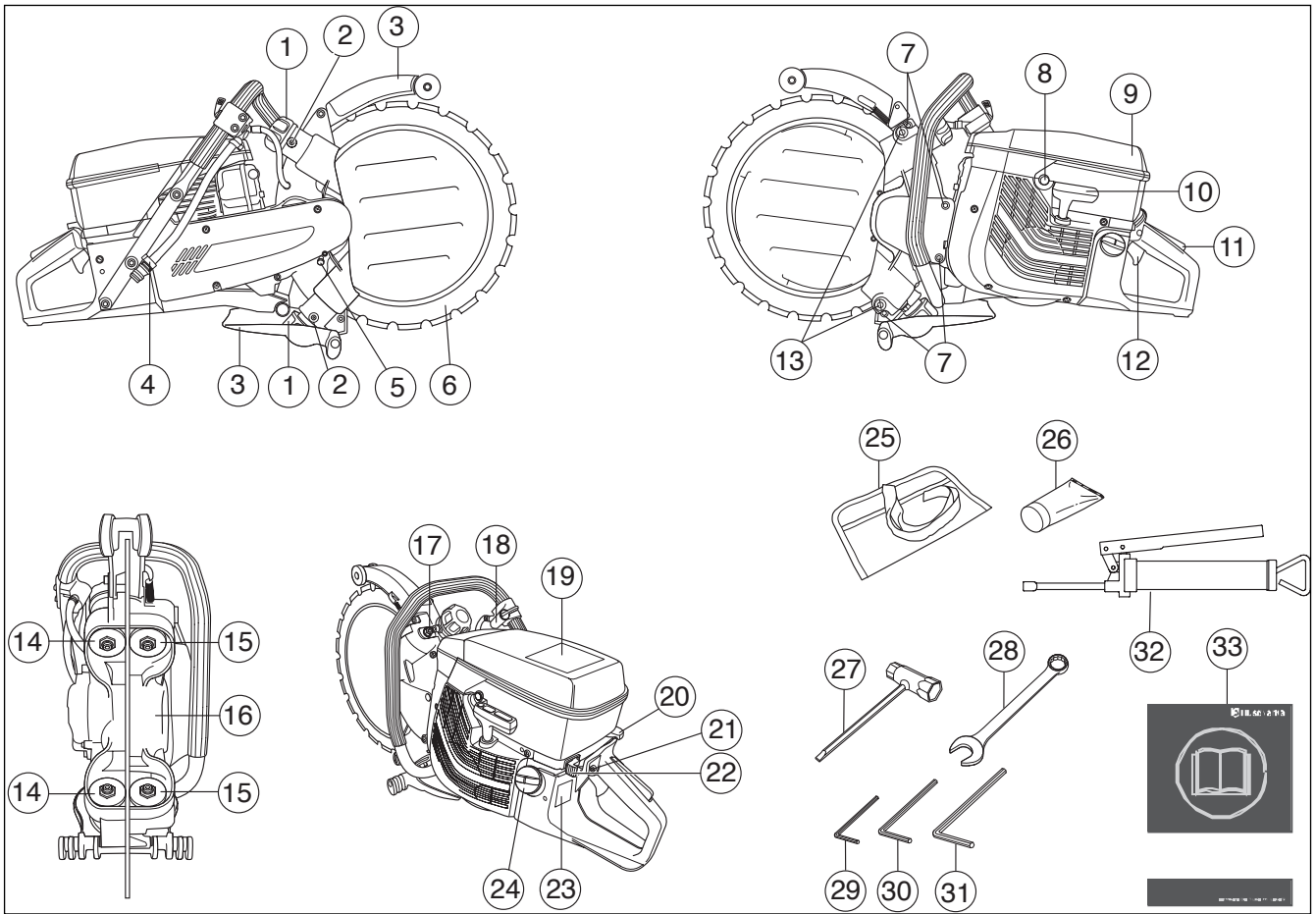
|                 |    |
|-----------------|----|
| K950 Ring ..... | 24 |
|-----------------|----|

|                |    |
|----------------|----|
| カッティング装置 ..... | 24 |
|----------------|----|

|                   |    |
|-------------------|----|
| トラブルシューティング ..... | 25 |
|-------------------|----|

|              |    |
|--------------|----|
| EC適合宣言 ..... | 26 |
|--------------|----|

# 各部名称



## パワーカッタの各部名称

- |                    |                 |
|--------------------|-----------------|
| 1 ガイドローラー制御        | 18 水量調節         |
| 2 グリースニップル         | 19 警告ステッカー      |
| 3 ブレードガード/スプレーガード  | 20 チョーク         |
| 4 水道接続             | 21 スタートスロットルロック |
| 5 駆動ホイールのロックボタン    | 22 ストップスイッチ     |
| 6 ダイヤモンドブレード       | 23 銘板           |
| 7 カバーネジ            | 24 燃料タンク        |
| 8 デコンプレッサーバルブ      | 25 工具バッグ        |
| 9 エアフィルターカバー       | 26 軸受グリース       |
| 10 スターターハンドル       | 27 コンビレンチ       |
| 11 スロットルロック        | 28 19 mm コンビレンチ |
| 12 スロットルトリガー       | 29 4 mm 六角レンチ   |
| 13 調節ネジ            | 30 5 mm 六角レンチ   |
| 14 ガイドローラー         | 31 6 mm 六角レンチ   |
| 15 サポートローラー        | 32 グリースガン       |
| 16 駆動ホイール          | 33 取扱説明書        |
| 17 サポートローラーのロックナット |                 |

# 安全注意事項

## パワーカッターを初めてお使いになる前に

- 取扱説明書をよくお読みください。
- カッティングブレードの取付具合を点検します。「組立」の章を参照してください。
- エンジンを始動しアイドリングの設定を点検します。詳細は「メンテナンス」を参照してください。キャブレターが正しく設定されていると、カッティングブレードはアイドリング時に静止状態になるはずですが、アイドリング速度の設定は取扱説明書に記載されています。説明に従って、適切な速度に設定します。アイドリング速度を正しく調整せずにパワーカッターを使用しないでください。
- パートナー社の代理店にパワーカッターを点検、重要な調整、修理を依頼してください。



**警告！**いかなる理由であれ、製造元の了承を得ることなく本機的设计に変更を加えないください。常に純正の部品をお使いください。不認可の変更や付属品は、使用者やその他の人の重傷や致命傷の原因となることがあります。



**警告！**切削、研磨、ドリル、ヤスリかけ、および形成などに使用する製品は、有害物質を含む粉塵や蒸気を発生させることがあります。加工対象となる素材の性質を熟知し、適正な防塵マスクや呼吸用保護具を使用してください。



**警告！**パワーカッターは正しく慎重に扱わない場合危険な道具となり、重傷や致命傷の原因となることがあります。本書の内容をよく読み理解することが、非常に重要です。



**警告！**本機のイグニッションシステムは、運転中に電磁場を生成します。この電磁場は、場合によってペースメーカーに影響を及ぼすことがあります。重傷や致命傷の危険性を低減するため、ペースメーカーの使用者は、本機を使用する前にまず医師とペースメーカーの製造元に確認を取ることをおすすめします。

ハスクバーナ・コンストラクション・プロダクツは継続的に製品の開発をおこなっています。ハスクバーナは設計や外見などを予告なく変更する権利を有し、また、デザイン変更をそのつど発表する義務を負いません。

本書の情報およびデータのすべては、本書の印刷時に有効なものです。

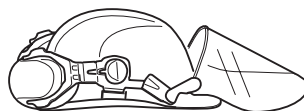


**警告！**本機を使用する際は、承認を受けた身体保護具を必ず着用してください。身体保護具で負傷の危険性を排除できるわけではありませんが、万が一事故が起こった場合、負傷の度合いを軽減することができます。身体保護具の選択については、最寄の販売店にご相談ください。

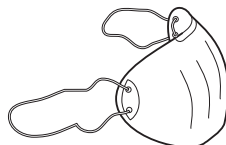
### 身体保護具

- 保護ヘルメット
- イヤマフ

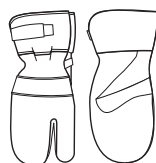
- 保護メガネまたはバイザー



- 防塵マスク



- しっかりと掴むことのできる丈夫な手袋。



- ..身体に沿って動きが楽な、丈夫で快適な衣服。



- 切削対象となる素材に対応したすね当て。
- 底が滑り止め仕様のスチールトウの靴。



- 常に救急箱を手元に用意。



## パワーカッターの安全装置

このセクションでは、本機の安全装置とその目的、および安全装置の機能を維持するための点検とメンテナンス方法について説明しています。安全装置の配置については「各部名称」を参照してください。



**警告！**安全装置に欠陥のあるパワーカッターは決して使用しないでください！このセクションの説明にしたがって点検、メンテナンス、およびサービスを定期的に行なってください。

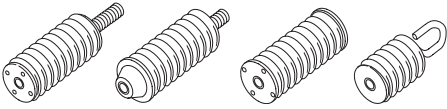
# 安全注意事項

## 防振装置

本機には防振装置がついており、振動をやわらげ操作しやすいようになっています。

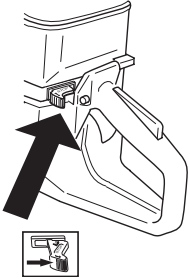
本機の防振システムは、エンジンユニット/カutting装置とハンドルユニットとの間の振動伝達を軽減します。

防振ユニットがカutting装置を含むエンジン本体の振動からハンドルを守ります。



## ストップスイッチ

ストップスイッチはエンジンを切るときに使用します。

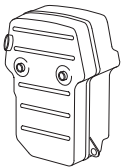


## マフラー



**警告！** 使用中および使用直後のマフラーは非常に熱くなっています。熱くなっているマフラーには決して触れないでください！

マフラーは騒音のレベルを最小限に抑え、排気ガスを使用者から遠ざける働きをします。



**警告！** エンジンの排気ガスは高温で火花を含むこともあり、火災発生の原因となり得ます。屋内や可燃物の傍では、決して本機を始動しないでください！

### 重要

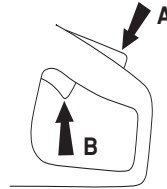
マフラーに関しては、点検、メンテナンス、およびサービスの指示にしたがうことが非常に重要です。詳細は「パワーカッターの安全装置の点検・メンテナンス・サービス」を参照してください。



**警告！** マフラーには発ガン成分となり得る化学物質が使われています。万が一マフラーが損傷した場合、これらの物質に触れないようにしてください。

## スロットルロック

スロットルロックはスロットルトリガーの操作ミスを防ぐためのものです。スロットルロック (A) を押さえる (ハンドルを握る) とスロットルトリガー (B) が解放されます。ハンドルから手を放すと、スロットルトリガーとスロットルロックはともに元の位置に戻ります。この動作は、2つの独立したリターン springs が制御しています。この構造はつまり、アイドリングではスロットルトリガーが自動的にロックされることを意味します。

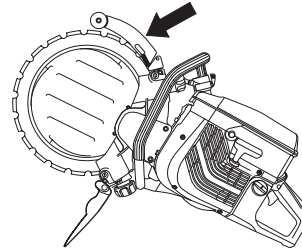


## ブレードガード



**警告！** 本機を始動する前に、ガードが正しく固定されていることを必ず確認してください。

このガードはブレードの上に取り付けられ、ブレードの一部や切削物破片が使用者の方に飛んで来ないようにデザインされています。



## パワーカッター安全装置の点検・メンテナンス・サービス



**警告！** 本機のサービスや修理はいずれも、特別な教育を必要とします。特に安全装置にはこのことが該当します。お持ちのパワーカッターの安全装置が下のチェック項目の一点でも満たさない場合は、必ず最寄のサービス代理店にご連絡ください。弊社では、製品お買い上げの際に、専門家による修理とサービスを保証しています。お買い上げになった販売店がサービス販売店でない場合は、その販売店に最寄のサービス代理店の所在地をお問い合わせください。

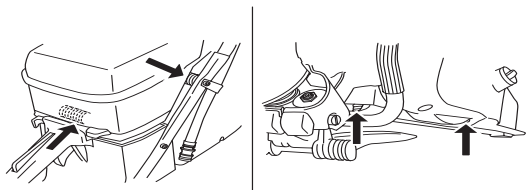
# 安全注意事項

## 防振装置



防振ユニットにヒビや変形がないか、定期的に点検します。

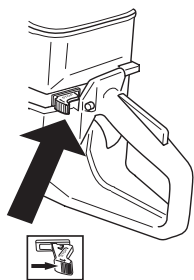
防振ユニットがエンジンユニットとハンドルユニットにしっかり固定されていることを確認します。



ハンドルは常に清潔、乾燥を保ちます。

## ストップスイッチ

エンジンを始動し、ストップスイッチをストップの位置にすればエンジンが停止することを確認します。

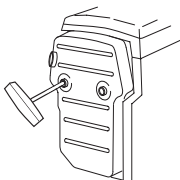


## マフラー

欠陥のあるマフラーを装着したパワーカッターは決して使用しないでください。

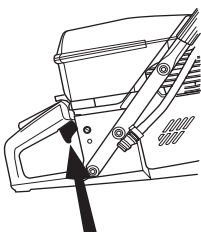


マフラーがパワーカッターにしっかりと固定されているかどうか、定期的に点検してください。

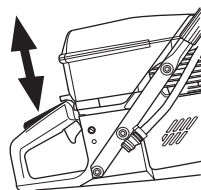


## スロットルロック

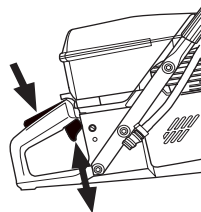
- スロットルロックを放すと、スロットルトリガーがアイドリング設定に固定されることを確認します。



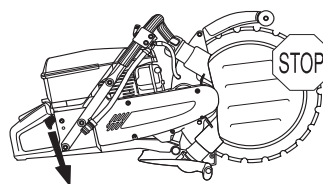
- スロットルロックを押し、指を放すと元の位置に戻ることを確認します。



- スロットルトリガーとスロットルロックがスムーズに動き、リターン springs が正しく機能していることを点検します。



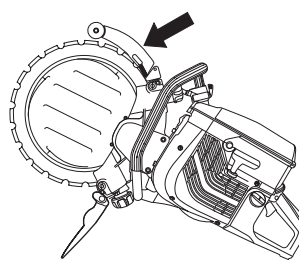
- パワーカッターを始動し、フルスロットルにします。スロットルトリガーを放して、カッティングブレードが停止しそのまま静止状態を保つことを確認します。スロットルがアイドリングの位置になっているにもかかわらずカッティングブレードが回転する場合は、キャブレターのアイドリング設定を調節してください。



- .....詳細は「メンテナンス」を参照してください。

## ブレードガード

ブレードに欠けている箇所がなく、亀裂や変形がないことを確認します。



**警告！**本機を始動する前に、ガードが正しく固定されていることを必ず確認してください。ブレードが正しく固定され、損傷がないことも確認してください。ブレードに損傷があると、負傷の原因となることがあります。「取付」の説明を参照してください。

# 安全注意事項

## 安全に関する予備知識

**重要 K950 Ringは湿式切削のみに使用してください。水で、ブレードとカッティング装置の部品を洗浄するとともに冷却します。**

- パワーカッターはコンクリートや石、スチールや鉄などのような、硬い材質の物の切削用に設計されています。柔らかい材質の物を切削する際は、キックバックが起こりやすくなることにご注意ください。「キックバックの避け方」参照。
- 取扱説明書を完全に読み終わるまで、パワーカッターを使用しないでください。「パワーカッターの安全装置の点検・メンテナンス・サービス」に記載の項目ばかりでなく、全てのサービスは教育を受けたサービスの専門家がこなすようにしてください。
- 疲労時、飲酒後、または視覚や判断力、反射神経に影響を与えるような薬剤の服用中は、絶対に本機を使用しないでください。
- 身体保護具を着用してください。詳細は「身体保護具」を参照してください。
- オリジナルの仕様を変更したパワーカッターは、それがどのような変更であっても絶対に使用しないでください。
- 欠陥のあるパワーカッターは絶対に使用しないでください。本書の内容に従って、点検、メンテナンス、およびサービスを行なってください。メンテナンスやサービスの内容によっては、教育を受け資格を持った専門家であればできないものもあります。詳細は「メンテナンス」を参照してください。
- 他人の使用を許可する場合は、その人が取扱説明書の内容を理解したことを必ず最初に確認してください。

## 搬送と保管

ブレードを取り付けたまま、パワーカッターを搬送したり保管したりしないでください。

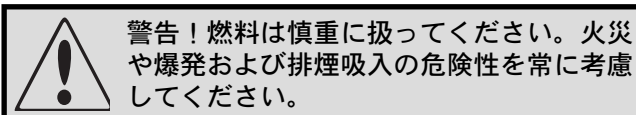
パワーカッターは鍵がかけられる場所に保管し、子どもや関係者以外の人が近づけないようにしてください。

使用後はブレードを取り外し、丁寧に保管してください。ブレードは乾燥した場所で保管してください。

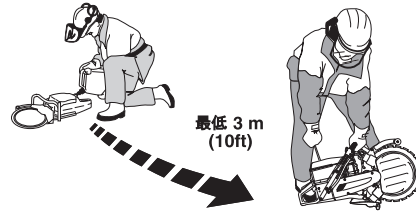
## 燃料の安全について



(燃料の補充/燃料の混合/保管)



- エンジンの走行中は絶対に給油を行なわないでください。
- 燃料の補充や混合(ガソリンと2サイクルエンジンオイル)を行なうときは、十分に換気してください。
- 給油後は、給油した場所から少なくとも3 m離れたところで始動してください。
- 下の条件では、決して本機を始動しないでください。



- 燃料を本機上にこぼした場合。きれいに拭き取り、表面に残った燃料が蒸発するのを待ちます。
- 皮膚や衣服に燃料をこぼしたときはまず着替え、皮膚についた燃料を洗い流してください。石鹸と水を使用します。
- 燃料が漏れている場合は、燃料キャップと燃料ホースから漏れていないか、定期的に点検してください。
- 保管時や搬送時に、燃料の漏れや排煙が、電気機器、電気モーター、電気リレー/スイッチおよびボイラーなどの火花や裸火と接触する危険がないようにしてください。
- 燃料の保管には、保管専用に承認された容器を使用してください。
- パワーカッターを長期間保管する場合は、燃料タンクを空にしてください。余剰燃料の廃棄方法については、地元のガソリンスタンドにお尋ねください。
- 流出防止装置のついているHusqvarnaの燃料缶を使用してください。



**警告！火災や爆発および排煙吸入の危険性を常に考慮してください。給油前にエンジンを止めます。燃料がこぼれないように給油します。地面やパワーカッターにこぼれた燃料を拭き取ります。皮膚や衣服に燃料をこぼした場合は着替えてください。給油場所から少なくとも3メートル離れたところで始動します。**



# 安全注意事項

## 一般的な作業方法



警告！このセクションでは、パワーカッターの基本的な安全注意事項について説明しています。しかし、ここに記載されている事項は、技術と経験を持つ専門家の知識にかなうものではありません。判断に迷う状況に遭遇した場合は作業を中断し、専門家のアドバイスを受けてください。最寄の販売店、サービス代理店または経験豊富なパワーカッター使用者などに連絡をとります。確信をもてない作業は行なわないでください！

## 安全に関する基本的規則

### 重要

損傷があるパワーカッターや調節が誤っているパワーカッターでは絶対に作業をしないでください。スロットルを放すとブレードの回転が停止することを確認してください。

- ・ 周囲を見渡してください。
  - 近くの人や動物、または他の物がパワーカッターの操作に影響しないことを確認します。
  - また、これら周囲のものがカッティングブレードと接触しないことを確認します。
- ・ 濃霧、降雨、強風、極寒などの悪天候下ではパワーカッターを使用しないでください。悪天候下での作業は疲れやすく、地面が滑りやすくなるなど危険な条件にもつながります。
- ・ パワーカッターを使って作業を開始するのは、必ず作業場が整い安定した足場が準備できてからにしてください。予期せぬ動きをしそうな障害物に注意してください。切削中に切削対象物が動きやすくなり落下することのないようにしてください。労働災害の原因になることがあります。傾斜地で作業をするときは、十分な注意が必要です。
- ・ 回転するカッティング装置に、衣服や身体がたとえ一部でも接触しないよう注意してください。
- ・ カッティング装置の回転中は、カッティング装置から安全な距離を保ちます。
- ・ エンジンが作動しているときは、必ずブレードガードを下げてください。
- ・ 作業エリアの照明が十分で安全な作業環境になっていることを確認します。
- ・ カッティング装置の回転中はパワーカッターを移動しないでください。
- ・ 常に安全で安定した体勢を保つようにしてください。
- ・ 切削箇所にパイプや電気ケーブルなどがいないか、確認します。

上記の指示にしたがってください。ただし、事故発生の際に助けを呼べない状況ではパワーカッターを使用しないでください。



警告！本機は、必ず換気が良好な状態において使用してください。これを怠ると重傷や死亡にいたる場合があります。

## 切削



警告！パワーカッターの安全距離は15メートルです。作業エリアに動物や関係者以外の人がないことを、責任を持って確認してください。作業エリアが整い、安定した足場が用意できるまで、切削作業を開始しないでください。

- ・ エンジンをフルスロットルにして切削を開始します。
- ・ 常に両手でパワーカッターをしっかりつかみます。親指をかけすべての指でしっかりとハンドルを握ります。

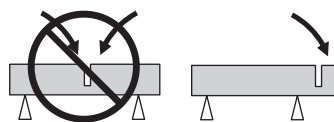


警告！循環器系に障害のある人が振動を長期間受け続けると、循環器障害や神経障害を起こすことがあります。振動が原因と思われる症状が出たときは、医師に相談してください。症状にはしびれ、感覚まひ、うずき、ちくちくする痛み、刺すような痛み、力が入らない、皮膚の色や状態の変化などがあります。これらの症状は通常、指や手の甲、手首に現れます。また、気温が低いと症状が出やすくなります。

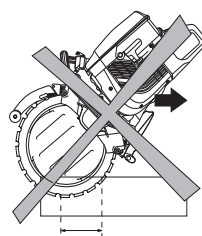
## 切削のテクニック

ここで説明しているテクニックは一般的なものです。

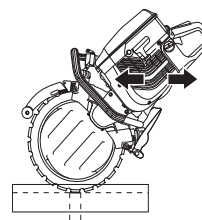
- ・ 切削対象物は次に起こることが予測できる方法で、しかも切削中に切り目が閉じないように支えます。



- ・ パワーカッターを始動する際、ブレードが何か他の物に触れないことを確認してください。
- ・ 常にフルスロットルで切ってください。
- ・ ブレードを無理に押し付けたりせず、パワーカッターが自然に進むのに任せて滑らかに切り始めます。

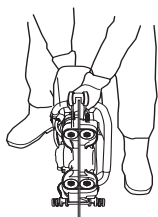


- ・ ブレードをゆっくり前後に動かして、ブレードと切削対象物との接触面が小さくなるようにしてください。こうするとブレードの温度が低く抑えられ、より効率的に切削できます。



# 安全注意事項

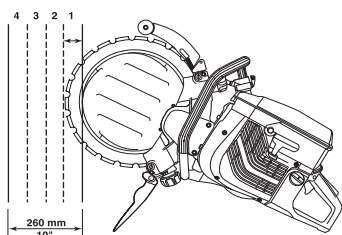
- ブレードの一部分のみを使用して切削してください。
- パワーカッター本体とブレードが一直線になるようにしてください。側面から圧力がかかるとブレード破損の原因となり、たいへん危険です。



**警告！** パワーカッターを一方へ引き寄せないでください。こうするとブレードが挟まれたり破損したりし、負傷の原因となることがあります。

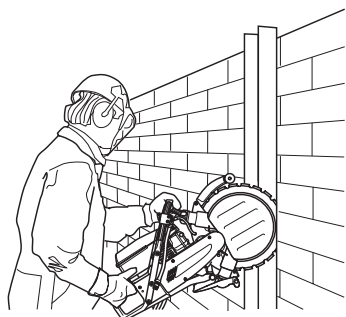
## 切削の深さ

K950 Ringは260 mm (10インチ)の深さまで切削することができます。まず、深さが50~70 mmの切り目をガイドとして入れると、パワーカッターを制御しやすくなります。つまり、水盤が切削対象物に入り込み、パワーカッターの制御を補助します。一度の切り込みで切り終わろうとすると、より時間がかかります。切削の深さが260 mm (10インチ)に及ぶときは、3~4回に分けて切った方が結果的に早く切り終わります。



## 大型のものを切るとき

1 mを超えるものを切るとき - 切削ラインに沿って当て木をあてがってください。当て木がガイドの役割をします。この当て木に沿って、ガイドとなる深さ50~70 mm (2~3インチ)の切り込みを全体に入れます。ガイドとなる切り込みを入れたら、当て木を取り外します。



## 小型のものを切るとき

まず、深さが最大でも50~70 mm (2~3インチ)の、ガイドとなる浅い切り込みを入れます。次に、最終的に切ります。

## 切削の順序

まず、底辺にあたる水平線を切ります。次に、両側の垂直線を切ります。最後に、上辺にあたる水平線を切ります。

撤去の際に安全に搬送できるよう、取り扱い可能な大きさに切断するようにしてください。

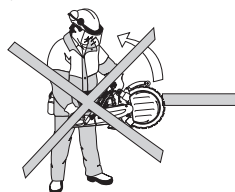
注意! 底辺を切る前に上辺を切ってしまうと、底辺を切っている途中で切削対象物が落下し、ブレードが挟まれてしまいます。

## キックバックの避け方

**警告！** キックバックは突然強い力で起こり、パワーカッターとカッティングブレードが使用者に向かってはじき返されます。カッティングブレードの回転中にキックバックが発生した場合、重傷やさらには致命傷の原因となることがあります。キックバックが起こる理由を理解し、正しい技術と慎重な作業で発生を避けることが非常に重要です。

## キックバックとは何か

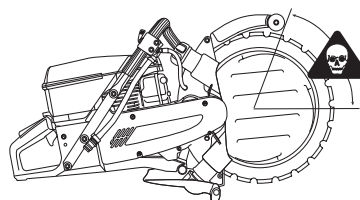
キックバックという言葉は、カッティングブレードの上側4分の1の部分(キックバックゾーン)が切削対象物に触れた際に、パワーカッターとカッティングブレードが突然対象物にはじき返される現象を説明するときに使用されます。



キックバックは、カッティングブレードのキックバックゾーンが対象物に触れた場合にのみ発生します。

## 基本的な規則

- カッティングブレードの上側4分の1の部分、つまりキックバックゾーンでは、絶対に切らないでください。



- 体のバランスを保ち、安定した足場を確保してください。
- 常に両手でパワーカッターをしっかりつかみます。親指をかけすべての指でしっかりとハンドルを握ります。
- 切削対象物から適度な距離に立ちます。
- 常にフルスロットルで切ってください。
- 既に切り目が入っている箇所にブレードを差し込む際は、注意してください。
- 肩より高い位置では絶対に切らないでください。

# 安全注意事項

- 切り目が閉じたりブレードが挟まれたりしないよう、切削対象物の動きやその他の状況に注意を払ってください。

## プルイン

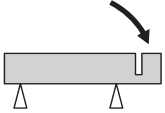
プルインはディスクの下部が突然停止したり切り目が閉じたりしたときに発生します。(プルインを避けるには、「基本的な規則」と下記の「挟み込み/回転」を参照してください。)

## 挟み込み/回転

力がかかって切り目が閉じてしまうと、挟み込みが発生します。この場合、非常に強い力で突然パワーカッターが引きずり込まれます。

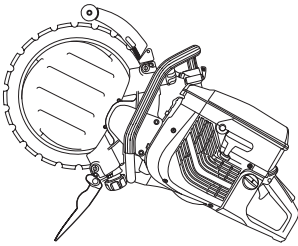
## 挟み込みの避け方

切削作業中および終了後に切り目が閉じないような方法で切削対象物を支えます。



## エンジン速度の点検

運転温度および負荷なしのフルスロットルでカッターが走行しているときのエンジンの速度を、回転速度計を使って定期的に点検します。



**警告！**計測された速度が記載されている速度より大きい場合、認定を受けたサービスワークショップで調整を行ってから使用してください。

## ダイヤモンドブレード

ダイヤモンドブレードは、スチール製の本体と工業用ダイヤモンドのセグメントで構成されています。

常に鋭利なダイヤモンドブレードを使用してください。この場合は、砥石やレンガなど、軟らかい材質のものを切って目立てしてください。

ダイヤモンドブレードには、数種類の硬さ等級があります。“軟らかい”ダイヤモンドブレードは耐用期間が比較的短いかわりに、切削能力が大きくなります。このタイプは花崗岩や強化コンクリートなど、硬い材質のものに使用します。“硬い”ダイヤモンドブレードは耐用年数は長くなりますが切削能力は劣り、レンガやアスファルトなど軟らかい材質のものに使用します。

ダイヤモンドブレードは石造物や強化コンクリート、およびその他の合成材に適しています。金属の切削にはおすすしません。

## 水冷



**警告！**ダイヤモンドブレードは常に水で冷却し、過熱状態にならないようにします。過熱状態になるとブレードが破損し、飛び散った破片が負傷や損害の原因となることがあります。

切削中はブレードを冷却するため、および粉塵を抑えるために、ブレードに水をかけてください。

## ダイヤモンドブレードの目立て

送り圧力が適切でなかったり、超強化コンクリートなどある種の材質のものを切ると、ダイヤモンドブレードの切れが鈍くなることがあります。切れないブレードを無理に使うと過熱状態になり、ついにはセグメント(ブレードの一部)が欠けてしまいます。

この場合は、砥石やレンガなど、軟らかい材質のものを切って目立てしてください。

## ダイヤモンドブレードの振動

送り圧力が大きすぎると、ブレードに狂いが出て振動することがあります。

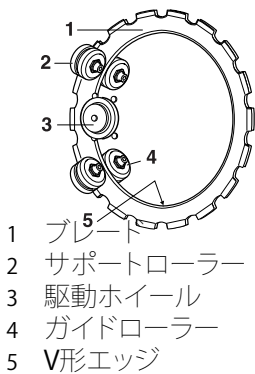
送り圧力を下げると、振動はなくなります。それでも振動する場合はブレードを交換してください。ブレードは切削しようとする材質に適したものを使用してください。

# 設定と調節

## 駆動原理

本機はその独自の設計により、駆動力がブレード中心に伝動されないようになっています。2つのガイドローラーのフランジが、ブレードの溝に沿って走行します。ガイドローラーのバネがローラーを押し出すようにし、それがブレード内径のV形エッジを駆動ホイールのV形溝に押し付ける働きをします。駆動ホイールは、エンジンから駆動ベルトを介して駆動される駆動軸に取り付けられています。

このため、350 mm (14インチ)のダイヤモンドブレードで260 mm (10インチ)という切削の深さが可能となっています。

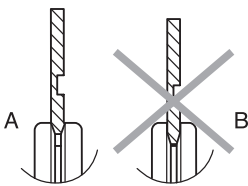


## 摩耗の点検

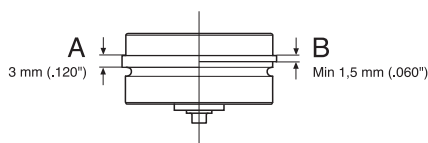
ブレードは使用するにつれ、内径と駆動ホイールの溝が摩耗してきます。

リングカッターは、下記の条件下でその後も良好に機能します。

- 駆動ホイールの摩耗があまり進んでいない場合  
A) 新品  
B) 摩耗した状態



- ガイドローラーの摩耗があまり進んでいない場合  
A) 新品  
B) 摩耗した状態

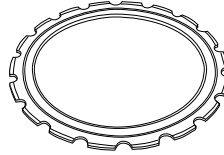


- ローラーとブレードとの間の調節が正しい場合

ローラーの設定は、ダイヤモンドブレードの耐用期間中、2回点検してください。1回目はブレードの取付後、2回目はブレードの摩耗が半分ほど進んだときです。

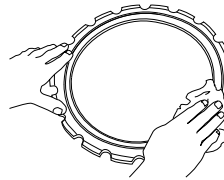
## ブレードの取付

ブレードは、異なる材質に応じて複数のタイプをご用意しています。用途に最適なブレードの選択に関しては、最寄のHUSQVARNA販売店にご相談ください。

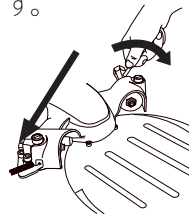


**警告！** 中古ブレードの修復は禁止されています。中古のブレードは構造的に弱くなっているかもしれません。また、修復したブレードは亀裂が入ったり破砕したりする危険性があり、使用者やその他の人が重傷を負う原因となることがあります。

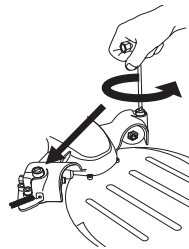
- ブレードの表面についている汚れを拭き取ります。



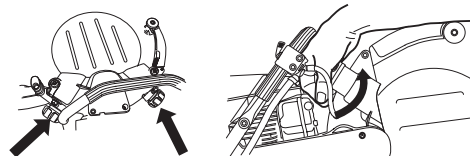
- サポートローラーカバーのロックナットを取り外します。



- 調節ネジを数回転分ゆるめます。

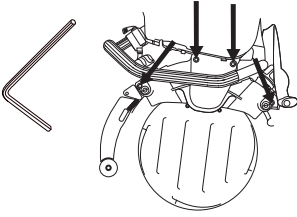


- ノブを緩めて、パネの張力を逃がします。



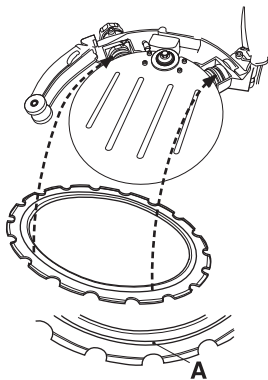
## 設定と調節

- サポートローラーガードを固定している4本のネジを6 mmの六角レンチを使用して取り外し、カバーを取り外します。

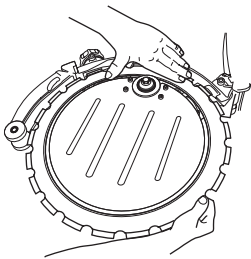


**警告!** ブレードを本体に取り付ける前に、ブレードに損傷がないことを確認してください。損傷のあるブレードは破碎する危険性があり、重傷の原因となることがあります。

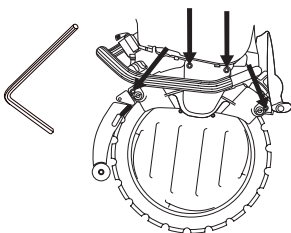
- ブレードを取り付けます。  
注意! ブレードの片面には溝(A)があり、サポートローラーのガイド溝としての役割を果たします。ブレードのV形エッジが駆動ホイールにしっかりと入り、ブレードのガイド溝がガイドローラーにフィットしていることを確認してください。「駆動原理」も参照してください。



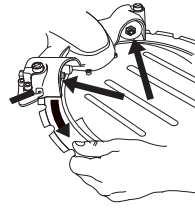
- ガイドローラーがブレードの溝に入り込むよう、必要に応じてガイドローラーを押し込みます。



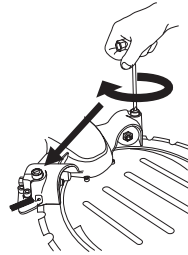
- サポートローラーのカバーを取り付けます。4本のネジを締め込みます。



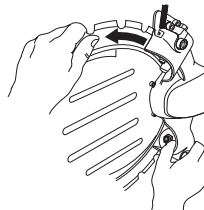
- ブレードを回してみ、ブレードへのサポートローラーの当たりが強すぎないことを確認します。



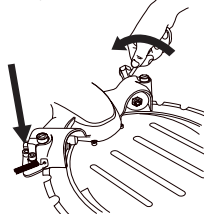
- 調節ネジでサポートローラーがブレードと接触するようにします。



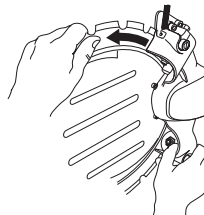
- ブレードの回転中にサポートローラーを親指で軽く押さえると止められる程度に調節してください。サポートローラーは、ブレードの回転に伴ってときおり回転する程度で十分です。



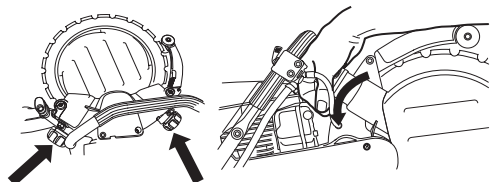
- サポートローラーガードのロックナットを締め込みます。



- ブレードを回し、回転中にサポートローラーを親指で止められるかどうか、再び確認します。  
注意! パワーカッターは真っ直ぐ立ててください。カッターを横に寝かせると、ブレードの重みで正しい調節が難しくなります。



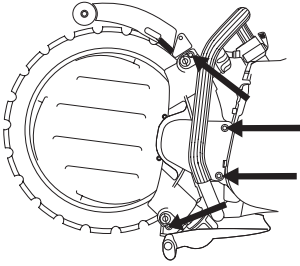
- ノブを締め込むと、使用準備完了です。



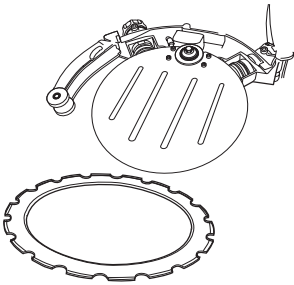
## 設定と調節

### ガイドローラー全体の取外

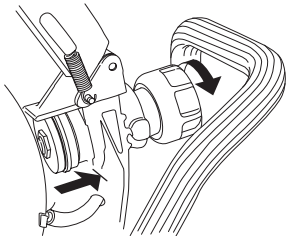
- サポートローラーカバーを取り外します。



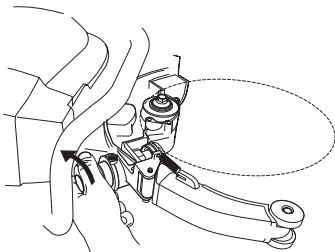
- ブレードを取り外します。



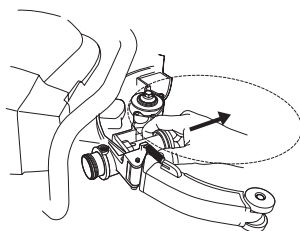
- ノブを緩めて取り外します。  
まず、抵抗を感じるまでノブを数回転します。ガイドローラーがノブに伴って出てきて、抵抗があるところで止まります。



ガイドローラーをノブに押し込みます。ガイドローラーを取り外すには、ノブが外れるまでノブを回してください。

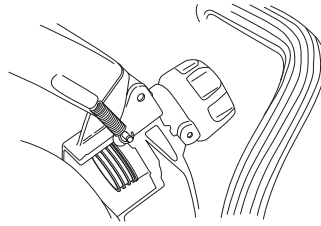


これで、シャーシからガイドローラーを引き抜くことができます。

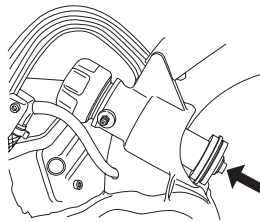


### ガイドローラー全体の取付

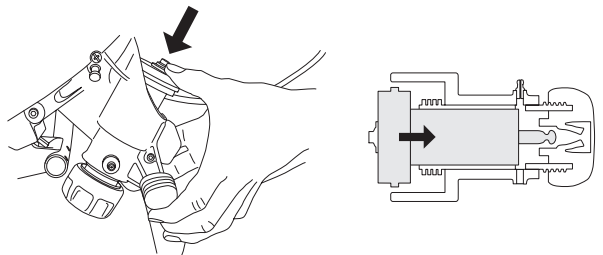
- 止まるところまでノブを締め込み、次に2回転分戻します。



- ガイドローラーをシャーシに挿入します。

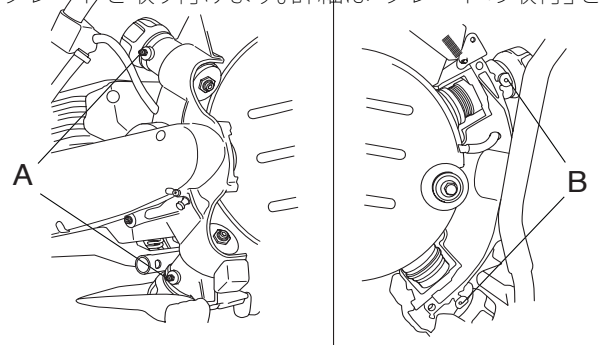


- ガイドローラーをノブに押し込みます。



- ガイドローラーのスリーブにグリースを塗布します。グリースガンでグリースニップル(A)に当て、きれいなグリースが穴(B)から溢れ出すまで注入します。

- ブレードを取り付けます。詳細は「ブレードの取付」を



参照してください。

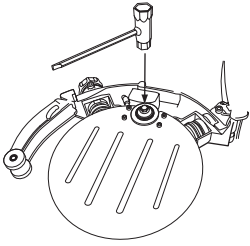
### 重要事項:

- ...サポートローラーはブレードを駆動しません。
- 不適正な調節はブレード損傷の原因となることがあります。
- ブレードがゆっくりとしか回転しない、または停止する場合は、直ちに切削作業を中止して故障を直してください。

# 設定と調節

## 駆動ホイールの交換

- 1 .....ロックボタンを使用して駆動軸を固定します。
- 2 .....中央のネジを外し、ワッシャを取り外します。

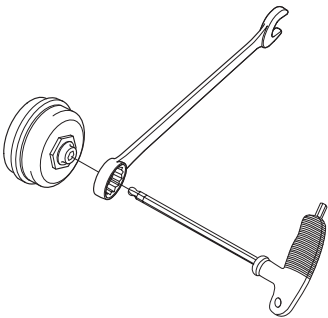


- 3 これで、駆動ホイールを取り外すことができます。

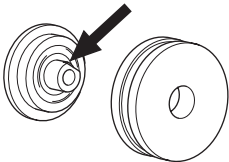
注意! 新品のブレードを取り付ける際は、駆動ホイールも交換してください。摩耗した駆動ホイールはブレードがスリップし損傷を受ける原因となります。流水量が不十分な場合にも駆動ホイールの耐用年数が短くなります。

## サポートローラー/ガイドローラーの交換

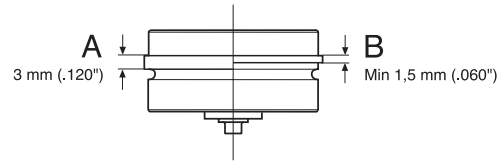
- サポートローラーカバーを取り外します。
- ローラーの摩耗状態を点検します。
- **19 mm**のスパナか**5 mm**のT型六角レンチを使用して、ローラーを交換します。



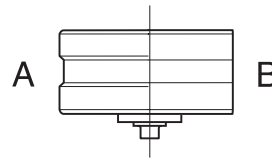
- 新しいローラーを取り付ける前に、ローラーの内側に軸受グリスを塗布します。



- ローラーのフランジの約半分が摩耗したら、ガイドローラーを交換してください。  
A) 新品  
B) 摩耗した状態

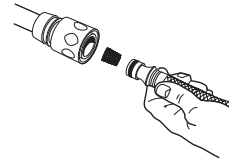


- ローラーの表面が平らになったら、またはローラー表面の溝が摩耗したらサポートローラーを交換してください。  
A) 新品  
B) 摩耗した状態



## 水道ホース


水道ホースを水道につなぎます。逆止め弁を開けると水が出ます。最低流量は**4 l/分**です。本機のホース接続口にはフィルターがあることにご注意ください。



# 燃料の取扱

## 燃料

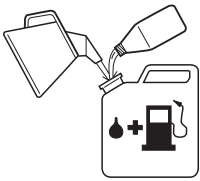
注意! 本機は2サイクルエンジンを搭載しているため、燃料にはガソリンと2サイクルエンジンオイルとの混合燃料が必要です。正しい混合率を確保するためには、オイルの量を正確に測定することが重要です。少量の燃料を混合する場合は、わずかな差でも混合比に多大な影響を及ぼすことがあります。



**警告! 燃料を取り扱う際は、常に十分な換気を行なってください。**

## ガソリン

- 無鉛または有鉛の良質なガソリンをご使用ください。



- 推奨される最低オクタン価は 90 です。90 以下のオクタン価でエンジンを作動させると、ノッキングの原因となることがあります。ノッキングが起きるとエンジンの温度が上がって、エンジンの深刻な損傷につながる可能性があります。

## 2 サイクルオイル

- 最良の効果を得るに、HUSQVARNA 2 サイクルオイルをご使用ください。このオイルは本機の 2 サイクルエンジン用として特別に作られています。
- アウトボードオイル (TCW) とも呼ばれる水冷式船外機用の 2 サイクルオイルは絶対に使用しないでください。
- 4 サイクルエンジンオイルも絶対に使用しないでください。
- 品質が悪いオイル、またはオイル/燃料の混合比が高すぎる場合は、触媒コンバーターの機能を損ない、耐用年数を短縮させることがあります。

## 混合比

1:50 (2%) HUSQVARNA 2 サイクルオイル

1:33 (3%) オイルクラス JASO FB または空冷2サイクルエンジン ISO EGB。

| ガソリン、リットル | 2 サイクルオイル、リットル |           |
|-----------|----------------|-----------|
|           | 2% (1:50)      | 3% (1:33) |
| 5         | 0.10           | 0.15      |
| 10        | 0.20           | 0.30      |
| 15        | 0.30           | 0.45      |
| 20        | 0.40           | 0.60      |

## 混合

ガソリンとオイルを混合するときは、常に清潔な燃料用容器をご使用ください。

- 必ず使用予定の半量のガソリンを、最初に容器に入れます。次にオイルの全量を入れ、燃料の混合物を良く混ぜ(振

り)ます。最後に残りのガソリンを加えます。

- 燃料タンクに給油する前に、混合燃料をよく混ぜ(振り)ます。



- 1 か月分以上の混合燃料を一度に作らないでください。
- 本機をしばらく使わないときは、燃料タンクを空にし、清掃してください。



**警告! 火災を避けるため、以下の注意を守ってください。**

燃料付近で喫煙したり、近くに高温の物を置かないでください。

給油の前には必ずエンジンを止めてください。

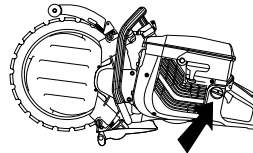
給油の際には、圧力が徐々に放出されるよう、燃料キャップをゆっくり開けてください。

給油後は燃料キャップをしっかり締めてください。

本機を始動する際は、必ず給油場所から移動してください。

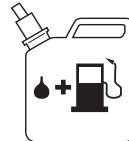
## 給油

- ハンドルは常に乾燥した状態に保ち、オイルや燃料が付着しないようにしてください。
- 燃料キャップの周囲を清掃してください。燃料タンクを定期的に清掃してください。燃料フィルターは少なくとも一年に一度交換してください。タンク内が汚れ



ると、機能不良につながります。

- 燃料は、燃料タンクに給油する前によく振って混ぜて



ください。

- 給油は常に慎重に行なってください。本機を始動する際は、給油場所から少なくとも3メートル離れてください。燃料キャップがしっかり締まっているか点検してください。



# 始動と停止

## 始動と停止



**警告！**始動に当たっては、下の注意点を守ってください。

ベルトガードを取り付けない状態でパワーカッターを始動しないでください。クラッチが外れて負傷の原因となることがあります。

本機を始動する際は、必ず給油場所から移動してください。

体と本機との間に適当な距離を取り、カッティングブレードが自由に回転することを確認してください。

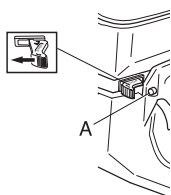
作業現場に関係者以外の人や動物がいないことを確認してください。

### 冷機始動



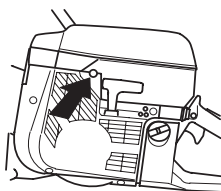
ストップスイッチを左にスライドさせます。チョークをいっぱいに引き出します。

スロットルロック:スロットルロックとスロットルトリガーを押し込み、スタートスロットルロック(A)を押します。スロットルトリガーを放すと、ハーフスロットルの位置でロック



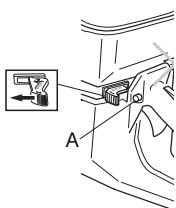
くされます。スロットルトリガーを再びいっぱい押し込むと、このロックは解除されます。

デコンパバルブ:デコンパバルブを押してシリンダー内の圧力を下げると、より容易に始動できます。始動の際は必



ずデコンパバルブを使用してください。始動後、バルブは自動的に元の位置に戻ります。

### 暖機始動



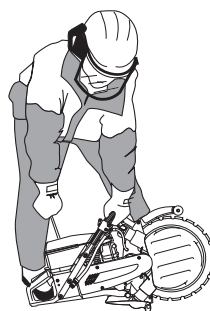
冷機始動と同様の方法で始動しますが、チョークコントロールをチョークの位置にすることはしません。

## 始動



**警告！**エンジンが始動するとカッティングブレードも回転を始めます。回転が妨げられないようにしてください。

左手で前ハンドルを握ります。右足で後ろハンドルを踏み、本機が地面から浮かないようにします。

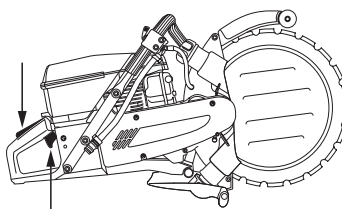


スターターロープは絶対に手に巻き付けしないでください。

スターターハンドルを右手で持って、抵抗を感じるまで(スターター爪がかむまで)ゆっくりとロープを引き出します。抵抗を感じたら、一気に引いてください。

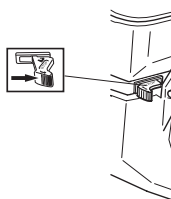
注意! スターターロープをいっぱい引き出したところから、スターターハンドルを急に放さないでください。本機が損傷を受ける可能性があります。

エンジンがかかったらすぐさまフルスロットルにします。こうすることで高速アイドルが自動解除されます。



## 停止

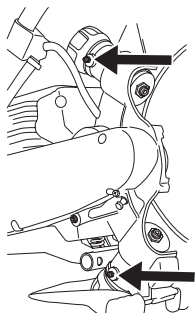
ストップスイッチを使用してイグニッションをオフにすることにより、エンジンが停止します。



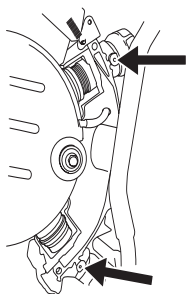
# メンテナンス

## ガイドローラーの注油

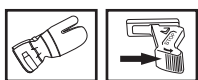
- グリースガンを用いてグリースニップルに接続します。



- きれいなグリースが穴から溢れ出すまで注入します。

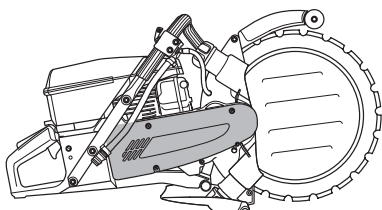


## 駆動ベルトの調節



駆動ベルトは完全に密封され、切削中の粉塵や汚れ、また物理的な損傷から守られています。

- カバーを取り外し、ベルト張力ネジを緩めます。

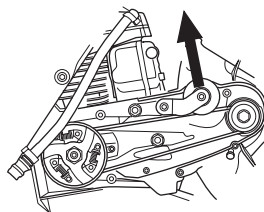


- 親指でベルトテンショナーを押し、ベルトに張力をつけます。ベルトテンショナーを押さえながらネジを締め込みます。

## ベルト張力調整/駆動ベルトの交換

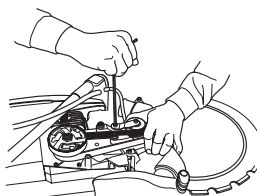


- カバーを取り外し、ベルト張力ネジを緩めます。ベルト張力ローラーを押しやり、新しい駆動ベルトを取り付けます。



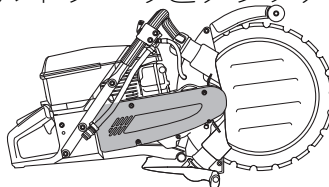
注意! 新しいベルトを取り付ける前に、双方のベルトプーリともに汚れや損傷がないことを確認してください。

- 親指でベルトテンショナーを押し、ベルトに張力をつけます。ベルトテンショナーを押さえながらネジを締め込みます。



- ベルトカバーを取り付けます。

## ベルトプーリとクラッチ



**警告!** ブレードガードをカッティングブレードの上に取り付けずにパワーカッターを絶対に使用しないでください。

ベルトプーリとクラッチをメンテナンスのために取り外している場合、絶対にエンジンを始動しないでください。

## キャブレター

ご使用のHusqvarna製品は、有害排気を減少させる仕様に基づき設計され製造されています。

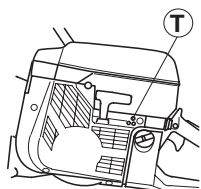
キャブレターには固定ネジが装備され、常に適正な空燃比をエンジンに提供します。エンジンの出力が低い場合や加速困難な場合は、次の手順に従ってください。

- エアフィルターを点検し、必要に応じて交換します。
- これで問題が解消しない場合は、認定を受けたサービスワークショップにご連絡ください。

# メンテナンス

## アイドリング速度 (T) の調節

アイドリング速度を再調整する必要がある場合は、アイドリングTネジで調整します。まず、カutting装置が回転し始めるまでTネジを時計方向に回します。次に、カutting装置が停止するまでTネジを反時計方向に回します。エンジンがどの位置にあってもスムーズに走行するようになれば、アイドリング速度は正しく設定されています。また、カutting装置が回転し始めるまでのアイドリング速度に十分な余裕があるはずです。



推奨のアイドリング速度: 2500 rpm



**警告!** カutting装置が停止するようにアイドリング速度を調整できない場合は、最寄の販売店またはサービスワークショップにご連絡ください。調整や修理が正しく行なわれるまで、パワーカッターは使用しないでください。

## 燃料フィルター

- 燃料フィルターは燃料タンクの内部に取り付けられています。
- 給油の際は燃料タンク内に汚れや異物が混入しないようにしてください。燃料タンクを汚染から守ることにより、タンク内の燃料フィルター詰まりが原因である機能不良の危険性が軽減されます。
- 燃料フィルターは清掃できません。詰まったら新品と交換してください。また、少なくとも一年に一度はフィルターを交換してください。

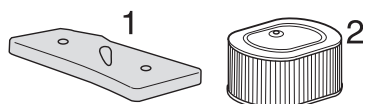
## エアフィルター



下記のような問題を避けるため、エアフィルターは定期的に清掃して粉塵や汚れを取り除いてください。

- キャブレターの不具合
- 始動不良
- エンジンのパワー不足
- エンジン部品の不必要な摩耗
- 燃料の異常消費

エアフィルターシステムは、オイルに浸したフォームプラスチック・フィルター (1) とペーパーフィルター (2) で構成されています。



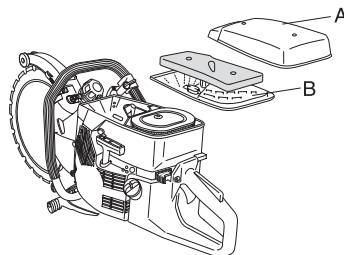
一定期間使用したエアフィルターはどんなに洗っても完全にきれいにはなりません。定期的に新しいフィルターと交換してください。破損したエアフィルターは必ず交換してください。

### 重要

エアフィルターのメンテナンスを怠るとスパークプラグにカーボンが付着し、エンジン部品の異常摩耗の原因となります。

## フォームプラスチック・フィルターを洗浄する

フォームプラスチック・フィルターはフィルターカバーAの下にあり、簡単に取り外せます。このフィルターは毎週点検し、必要に応じて交換してください。



高いフィルター効果を確保するには、定期的に交換するか、清掃してオイルに浸してください。オイルはフィルター専用のHusqvarnaオイルをおすすめします。

フォームプラスチック・フィルターを取り外します。フィルターを石鹼を溶かしたぬるま湯で洗います。きれいな水で十分にすすぎます。水気を搾り取り、乾かします。注記! 高圧圧縮空気はフォームを損傷することがあります。

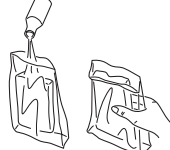


洗浄したフォームプラスチック・フィルターはオイルに浸す必要があります。詳細は「フォームプラスチック・フィルターをオイルに浸す」を参照してください。

## フォームプラスチック・フィルターをオイルに浸す

フィルターをビニール袋に入れ、フィルターオイルを注ぎ入れます。袋をもんでオイルをフィルターに行き渡らせます。フィルターの余分なオイルをビニール袋の中で搾り出し、フィルターを取り付ける前に余分なオイルを捨て去ります。一般のエンジンオイルは絶対に使用しないでください。このタイプのオイルはやがてフィルターから流れ出し、底にたまってしまいます。

## ペーパーフィルター



ペーパーフィルターはカバーBの下にあります。このフィルターは毎週点検し、必要に応じて交換してください。ペーパーフィルターは清掃不可能で、洗浄することもできません。

# メンテナンス

## スターター装置



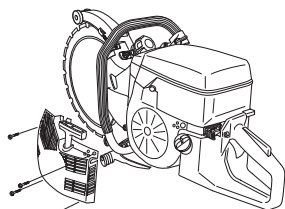
**警告！**リコイルスプリングは張力を持った状態でスターターハウジングに組み込まれているため、不注意に取り扱えばスプリングが飛び出して負傷の原因となることがあります。

リコイルスプリングやスターターロープを交換する際は十分に注意してください。常に保護メガネを着用してください。

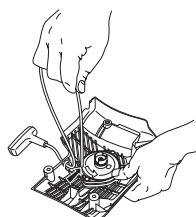
### 摩耗または破損したスターターロープの交換



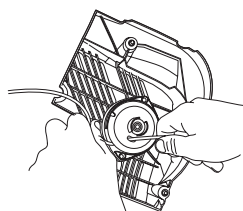
- スターター装置をクランクケースに固定しているネジを緩め、スターター装置を取り外します。



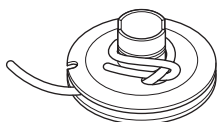
ロープを約30 cm引き出し、スタータープーリ外周の切欠にかけます。ロープが無傷な場合：プーリをゆっくりと逆方向に回し、スプリングの張力を逃がします。



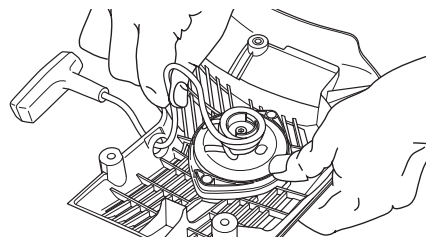
- 古いスターターロープの残留物などを取り除き、リターンスプリングが正常に機能するかどうかを確認します。新しいスターターロープをスターターハウジングの穴から通し、ローププーリに差し込みます。



- イラストを参照してロープをプーリに固定します。ロープの交差部分をしっかりと引き締め、さらに余った方の端ができる限り短くなるようにします。ロープの反対側の端をスターターハンドルに結び付けます。



ロープをプーリ外周の切欠に通し、スタータープーリの中心に3回、時計回りに巻き付けます。



次にスターターハンドルを引き、スプリングに張力をつけます。この手順を再び繰り返しますが、今回は4回巻き付けてください。

スプリングに張力をつけた後は、スターターハンドルを元の位置まで戻す必要があることにご注意ください。

スターターロープをいっぱい引き出したとき、スプリングが最後まで引っ張られていないことを確認します。スタータープーリを親指で押さえて速度を落とし、少なくともあと半回転分はプーリの回転に余裕があることを確認します。

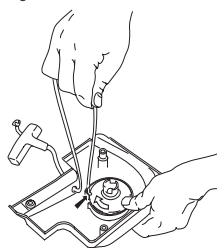
### リコイルスプリングを張る

- スターターロープをプーリの切欠にかけ、プーリを時計方向に約2回転します。

スタータープーリの切欠からロープを外し、プーリを逆方向に回してスプリングの張力を逃がします。

### 注意！

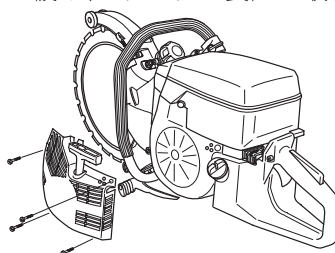
スターターロープを全部引き出した後でも、プーリが少なくとも半回転する余裕が残っていることを確認してください。



### 破損したリコイルスプリングの交換

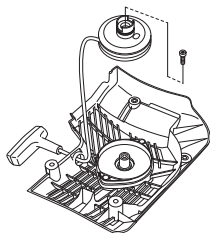


- スターター装置をクランクケースに固定しているネジを緩め、スターター装置を取り外します。

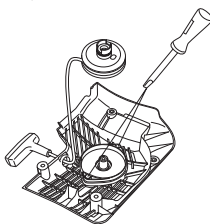


# メンテナンス

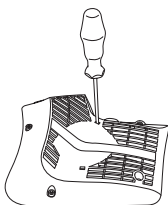
- プーリ中心のボルトを外し、プーリを取り外します。



- スプリングカセットを固定しているボルトを取り外します。



- スターターを裏返してリターンスプリングを取り外し、ネジ回しを使用してフックを取り外します。フックはリターンスプリング組部品をスターターに固定しています。

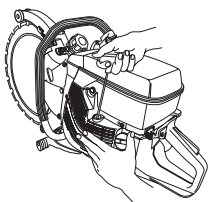


スターターハウジングのリターンスプリングは張力を持っていることにご注意ください。組み立て中にスプリングが飛び出した場合は、外側から内側に向かって巻きます。

- リコイルスプリングに薄いオイルを塗布します。プーリを取り付け、リコイルスプリングを張ります。

## スターター装置の組立

- スターター装置の組立には、まずスターターロープを引き出し、スターター装置をクランクケースにあてがいます。次にプーリに爪がかかるよう、スターターロープをゆっくりと戻します。



- ネジでスターター装置を固定します。

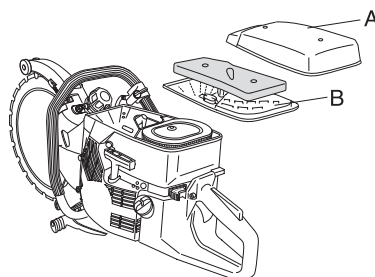
## スパークプラグ



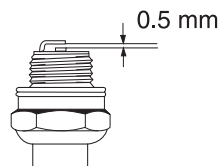
スパークプラグの状態は下記の点に影響されます。

- 不適切なキャブレター調整
- 誤った混合燃料(オイル過多)
- エアフィルターの汚れ

上記の原因によりスパークプラグの電極にカーボンが付着し、運転中の不具合や始動困難などの原因となります。

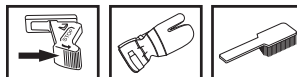


- アイドリング速度でのパワー不足や始動困難、走行不良:何よりもまず、スパークプラグを点検してください。スパークプラグが汚れていたら清掃し、電極ギャップが0.5 mmであることを確認します。スパークプラグは使用時間が延べ1ヶ月に達したら、または必要に応じてそれ以前に交換してください。

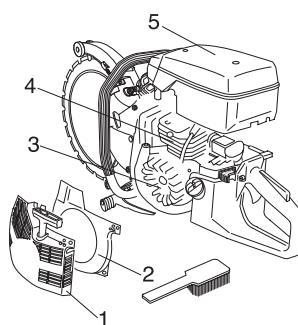


注意! 必ず指定のタイプのスパークプラグを使用してください!不適正なスパークプラグは、ピストンやシリンダーの損傷の原因となります。

## 冷却システム



運転時の温度をできる限り低く保てるよう、本機には冷却システムが装備されています。冷却システムの構成は以下のとおりです。

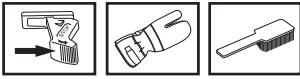


- 1 スターター装置の吸気口
- 2 エアガイドプレート
- 3 フライホイールのファン
- 4 シリンダーの冷却ファン
- 5 シリンダーカバー

冷却システムをブラシで一週間に一度、過酷な使用環境ではより頻繁に清掃してください。冷却システムが汚れたり詰まったりしていると本機はオーバーヒートを起こし、

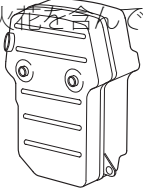
# メンテナンス

ピストンやシリンダーの損傷の原因となります。



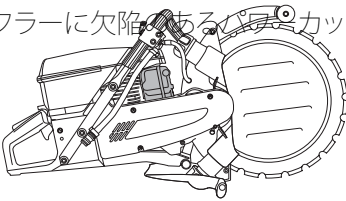
## マフラー

マフラーは騒音レベルを下げ、排気ガスを使用者から遠ざけるように設計されています。排気ガスは高温である上に火花を含んでいることがあり、乾燥した可燃物にかかる



と火災の原因となりかねません。

マフラーに欠陥のあるリングカッターは絶対に使用しな



いでください。



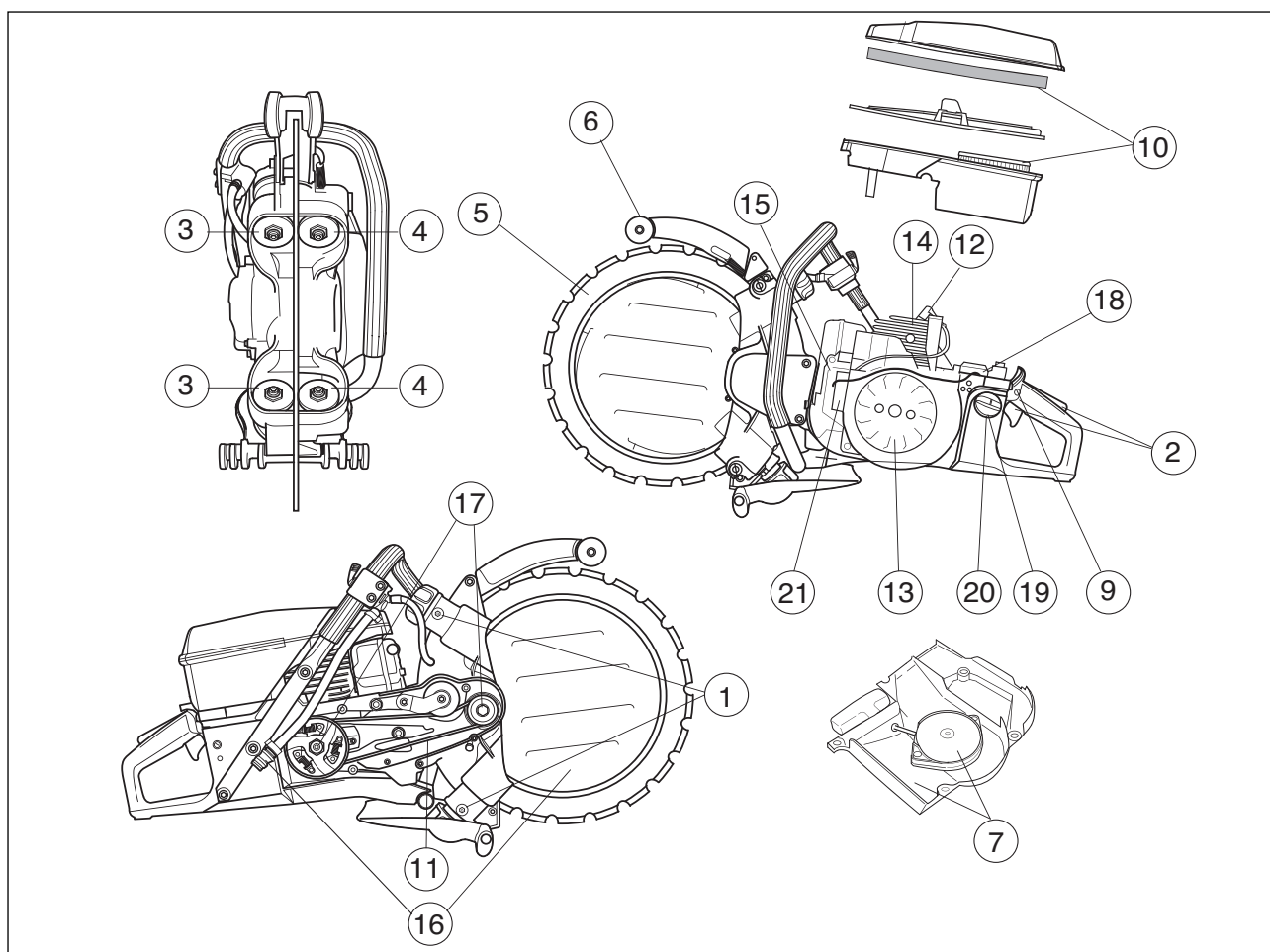
**警告！**リングカッターのブレードは修復することができません。その設計により、リングカッターのブレードには、中心駆動の14インチダイヤモンドブレードならば受けない負担がかかります。まず、駆動ホイールをブレード内径で駆動することにより、駆動ホイール表面およびブレードの双方が摩耗にさらされる状態になっています。そのためブレードの芯が次第に薄くなってガイドの幅が広くなり、結果としてホイールによるブレードの駆動が妨げられることとなります。さらに、ブレードが完全に真っ直ぐになっていない場合、ブレードにはローラによる負荷と実際の切削作業による負荷とがかかります。修復されたブレードである場合、ブレード内に負担が蓄積されると亀裂や破断につながります。破砕したブレードは、使用者やその他の人が重傷を負う原因となりかねません。このことから、**Husqvarna**は修復されたリング状カッティングブレードを認めていません。ただし、個々のセグメントなら修復できる場合があります。詳細については**Husqvarna**販売店にお問い合わせください。

# メンテナンス

## ブレードの修復

### 一般的なメンテナンス

ここでは一般的なメンテナンスについて説明しています。詳細については最寄のサービス代理店にお問い合わせください。



#### 毎日行なうメンテナンス

- 1 ガイドローラーに注油します。
- 2 スロットルトリガーのコンポーネント(スロットルトリガーとスロットルロック)がスムーズに動作するかどうか点検します。
- 3 ブレードの交換時にガイドローラーの摩耗度を点検します。ガイドローラー全体を取り外します。最高の効果を確認するため、ガイドローラーを清掃しグリースを塗布します。
- 4 サポートローラーの摩耗度を点検します。
- 5 ブレードと駆動ギアの状態を点検します。
- 6 ブレードガードの状態を点検します。
- 7 スターター装置とスターターロープを点検し、スターター装置の吸気口外部を清掃します。
- 8 すべてのナットやボルトが確実に締まっているかどうか点検します。
- 9 ストップスイッチが正常に動作するかどうか点検します。

#### 毎週行なうメンテナンス

- 10 メインフィルターを点検、清掃、または交換します。
- 11 駆動ベルトの張力を点検します。
- 12 スパークプラグを清掃します。電極ギャップが0.5 mmあるかどうか点検します。
- 13 フライホイールのファンを清掃します。スターター装置とリコイルスプリングを点検します。
- 14 シリンダーの冷却ファンを清掃します。
- 15 マフラーがしっかりと固定され、損傷がないことを確認します。
- 16 水盤と水道フィルターを点検、清掃します。

#### 毎月行なうメンテナンス

- 17 クラッチセンター、駆動ギア、およびクラッチスプリングの摩耗度を点検します。
- 18 キャブレターの外側を清掃します。
- 19 燃料フィルターと燃料ホースを点検します。必要に応じて交換します。
- 20 燃料タンクの内側を清掃します。
- 21 すべてのケーブルと接続を点検します。

# 主要諸元

## K950 Ring

|                                    |             |
|------------------------------------|-------------|
| シリンダー容積、cm <sup>3</sup>            | 93.6        |
| シリンダー口径、mm                         | 56          |
| 行程、mm                              | 38          |
| アイドリング速度、rpm                       | 2500        |
| 推奨の最大高速アイドリング速度、rpm                | 9750±250    |
| 出力、kW/rpm                          | 4.5         |
| イグニションシステム                         |             |
| 型式                                 | CD          |
| スパークプラグ                            | NGK BPMR 7A |
| 電極ギャップ、mm                          | 0.5         |
| 燃料および潤滑システム                        |             |
| キャブレターのメーカー                        | Tillotson   |
| キャブレターの型式                          | HS 282A     |
| 燃料タンク容量、リットル                       | 1.0         |
| 重量                                 |             |
| 燃料およびブレード不在のパワーカッター、kg             | 13.1        |
| 騒音放射                               |             |
| (注記1参照)                            |             |
| 音響出力レベル、実測dB(A)                    | 117         |
| 音響出力レベル、保証L <sub>WA</sub> dB(A)    | 118         |
| 騒音レベル                              |             |
| (注記2注参照)                           |             |
| 使用者聴覚での等価音圧レベル、EN 1454に準じて測定、dB(A) | 103         |
| 振動レベル                              |             |
| ハンドルの振動、EN 19432に基づく実測値            |             |
| フロントハンドル、相当値、m/s <sup>2</sup>      | 3.9         |
| リヤハンドル、相当値、m/s <sup>2</sup>        | 8.3         |

注記1：周囲に放出される騒音はEC 指令2000/14/ECに適合し、音響出力 (L<sub>WA</sub>) として計測されます。

注記2：等価騒音レベルは、アイドリングと最高速度の作動状態における騒音レベルの時間加重エネルギー合計として計算されます。その時分割比をアイドリング1/2、最高速度1/2としています。

## カッティング装置

|               |         |
|---------------|---------|
| 最大外周速度、m/秒    | 55      |
| ブレード直径、mm/インチ | 350/14" |
| 切削深さ、mm/インチ   | 260/10" |
| 最大エンジン速度、rpm  | 10000   |
| ブレード重量、kg     | 0.8     |
| 寸法            |         |
| 高さ、mm         | 410     |
| 長さ、mm         | 715     |
| 幅、mm          | 260     |
| 消費水量、リットル/分   | 4       |



# 主要諸元

## トラブルシューティング

### 機構に関するトラブル

| 症状            |   | 考えられる原因   |
|---------------|---|---|
| ブレードが回転しない。   | 1 | ローラーノブが完全に締まっていない。  |
|               | 2 | ブレードがガイドローラーに正しく乗っていない。                                       |
|               | 3 | ローラーの圧力が大きすぎる。  |
| ブレードの回転が遅い。   | 1 | ローラーノブが完全に締まっていない。  |
|               | 2 | 駆動ホイールの摩耗。  |
|               | 3 | ブレード内径のV形状が摩耗している。  |
|               | 4 | ガイドローラーのスプリングが弱くなっている。  |
|               | 5 | ローラーベアリングの故障。   |
| ブレードが飛び出す。    | 1 | ローラーの圧力が弱すぎる。   |
|               | 2 | ガイドローラーの摩耗。   |
|               | 3 | ブレードがガイドローラーに正しく乗っていない。                                       |
|               | 4 | ブレードの損傷。  |
| ブレードが反る。      | 1 | ローラーの圧力が大きすぎる。  |
|               | 2 | ブレードの過熱。  |
| セグメントが破損する。   | 1 | ブレードが曲がったりねじれたりしている、またはブレードのメンテナンス不良。                         |
|               | 2 | セグメントの欠損が一箇所だけの場合は使用継続可。または、ブレードの摩耗度が50%に達している場合修復を依頼。        |
| ブレードの切削速度が遅い。 | 1 | 切削対象の材質に不適なブレードを使用している。                                       |
| ブレードがスリップする。  | 1 | ガイドローラーが自由に入出力していない。ローラーが固着しているため、ブレードを駆動ホイールに押し付ける力が弱くなっている。 |
|               | 2 | 駆動ホイールの摩耗。研磨材の切削時に水量が少なすぎるとホイールの摩耗が進行。                        |
|               | 3 | ガイドローラーのフランジが摩耗している。フランジ幅の半分以上が摩耗していると、ブレードがスリップ。             |
|               | 4 | ブレードの溝と内径のエッジが摩耗している。研磨材切削時の水量が少なすぎたり駆動ホイールが摩耗しているとブレードがスリップ。 |

---

# 主要諸元

---

## EC 適合宣言

(ヨーロッパにのみ適用)

**Husqvarna Construction Products**、SE-433 81 スウェーデン、パッティレ市、電話：+46-31-949000は、単独責任のもとで宣言します。2006年のシリアル番号以降（年は銘板に連続したシリアル番号と共に明記）のパワーカッター—**K950 Ring** は、評議会指令 (COUNCIL'S DIRECTIVES) の規定に適合しています。

- 1998年6月22日付け「機械類に関する」**98/37/EC**、付録 IIA
- 1989年5月3日付け「電磁波適合性に関する」**89/336/EEC**と適用補足文書
- 2000年5月8日付け「環境への騒音排出に関する」**2000/14/EC**

騒音排出に関する詳細は「主要諸元」の章を参照してください。

次の標準規格にも適合しています：**SS-EN ISO 12100:2003, EN-ISO 55012:2002, EN 1454, ISO 19432**

さらに SMP、Svensk Maskinprovning AB、Fyrisborgsgatan 3、SE-754 50 ウプサラ、スウェーデンは、議会指令 2000/14/EC の補足 V に従って適合性査定を実施しました。認証番号：**01/169/011** - K950 Ring

2006年11月14日、パッティレにて



開発部長 Ove Donnerdal (オブエ・ドンネルダル)





1150289-79



2006-12-13